

第6回リーベルネットワーク研修会報告書

1. 開催日時：平成28年8月1日（月） 9：30～11：30

2. 開催場所：立花町市民センター イベントホール

3. 参加者

教育分科会委員22名、八女市しょうがい者福祉係1名

八女市内の特別支援学級教諭・特別支援教育コーディネーター42名（内教育分科会委員3名）

4. 実施内容

○講演 『障害者虐待防止における教育・関係機関の役割～早期発見から対応まで～』

講師 公益社団法人社会福祉士会 高齢者・障害者虐待対応チーム 稲吉 江美氏

○講演概要

高齢者、児童、DV、障害者それぞれの虐待防止法について整理していただき、学校や福祉サービス事業所における虐待についての対応について講義いただいた。虐待防止の考え方、虐待の種別について例を用いながら分かりやすく解説され、障害者虐待防止のスキームと対応については普段の業務を振り返る機会となった。

後半は教育現場における事例検討を実施し、教諭が生徒に対してとった行動について、なぜそのような行動になったのか、どうしたらよかったのか、組織内でどのように取り組むことができるのかについてグループによる意見交換を行い、障害者虐待についてより具体的な検討を行うことができた。以下に研修会参加者の意見を抜粋し掲載する。

○意見、感想（一部抜粋）

- ・ほんとに些細なことでも虐待につながるものが多々ある。子どもに対して相手を理解することを初めにおいていきたい。
- ・「身につけないといけない」とか「できるのにしない」という理由で厳しくすることとの境目があいまいで反省することが多い。
- ・虐待に対する職員の捉え方、感じていることを伝える行動ができていない。
- ・本人自身の感情が一定でない時に周囲がその障害の表出についていけず、つい声をあげたりすることがある。当人理解が本当に難しい。
- ・「負担・ストレスと組織風土」というのを最後の方で紹介されましたが、自分はしないと思っ
ていても他人事ではない気がしました。



・職場で話したいと思う。他の職員にも広げていきたい。

他研修の日程と重なってしまい参加者の負担が大きかった点が反省点であり、次回企画においては早い時期から打ち合わせを行い調整を図っていく。

